

《産前産後理学療法に関する海外情報 Vol. 6》

【日本語タイトル】

COVID-19 のパンデミックと妊娠

【オリジナルタイトル】

Coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic and pregnancy

【着目ポイント！】

1. 妊婦や胎児は COVID-19 の感染リスクが高い集団に含まれる。
2. 妊娠による生理的変化と COVID-19 による症状の判別が重要である。
3. 産科ケアの継続に感染予防策の強化が求められる。

【要約】 本論文は、米国産科婦人科学会（ACOG）の Special Report として発表されたものである。COVID-19 の臨床的特徴と産科における管理のフレームワークを示している。具体的には妊婦や胎児は感染リスクが高いと判断されており、現状では過去に流行した SARS や MERS に比較して死亡率は低いことが述べられている。ただし、子宮内発育不全や早産などの合併症が起きる可能性が挙げられている。また、母子間での垂直感染は現状みられていないこと、妊娠に伴って起こる生理的変化による鼻炎や息切れと COVID-19 による症状が似ているため、その判別が必要なことも述べている。治療は標準的な治療を行うこと、産科ケアは人員を最小限にするためにチームを組み、個人防護具（PPE）の利用などで対策をすること、また分娩時にも感染リスクの層別でトリアージを行い、感染予防策を決定することが提案されている。併せてリスクの層別に PPE の選択についても示されている。また、母乳育児は禁忌ではないが、接近することによる飛沫感染予防のためにマスクの着用が必要と述べている。

調査者

荒木 智子

（（一社）WiTHs/大阪行岡医療大学）

情報刊行日 / 情報調査日

2020 年 3 月 23 日 / 2020 年 5 月 30 日

情報のカテゴリー

産前産後 / 医療従事者向け

情報の発信国 / 組織

アメリカ / American Journal of Obstetrics and Gynecology (AJOG)

URL

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0002937820303434>

DOI

10.1016/j.ajog.2020.03.021